

施策名		111地域で子育てを支える	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> 対象年齢や他の施策との重複を含め、分かりにくい構成となっている。再検討をお願いしたい。施策の目的の下、横断的かつ総合的な事業が提供できているかが重要。 就学後の児童に対する事業は、施策の目的にどのように作用しているのかが不明。 基本事務事業④「子どもが自ら考え、参画する機会の拡充」に関する事業がどのように行われているのかが不明。 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 指標については、例えば利用した保護者の満足度などとし、改善につなげられるものにすべきである。 おそらく繰り返し利用している利用者が実績値となっているであろうから、延べ人数では客観的な成果が測れない。成果指標②も同様。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 事務事業評価表の指標と同じなのは、問題がある。 子育てのひろばを利用する必要がある家庭のうち、子育てひろばを利用することができた家庭の割合を測定したほうが分かりやすい。成果指標②も同様。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標の検討が不十分と思われるため、目標値についても妥当とはいえない。 実績値をベースにした目標値ではなく、区民ニーズを充足するための目標値を設定すべき。 延べ人数(件数)を目標値に設定する必要があるのかが疑問。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 数の増加だけで成果有りとするのは表面的すぎる。利用者の意見、満足度や、参加できなかった人の意見も聞くなどを考慮して成果を判断すべきである。
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	△	
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 総経費と、成果指標の実績値の関係について、具体的な数字で説明するべき。 委託により経費を抑えることができたとも読み取れる。成果(特にサービスの質)の面も検証した記載をすることも必要。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 受益者・保護者の意見、満足度などについての記載も必要。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標の実績値の達成や費用の点から良好と判断されているが、施策全体の取組みが進んでいるとは、理解できない。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 区民(受益者・保護者)から見て、本当に良好に進んでいるかを把握して判断すべきである(子育てのひろばやファミリーサポートの利用を必要としている家庭のうち、どの程度が満足しているか、という視点)。 判断理由に具体性が無く不十分。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア) 評価結果との関連性	△	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の満足度の向上を目指すのであれば、区民ニーズに基づいたサービスの向上が図れる内容を記載すべき。
	イ) 内容の具体性	△	<ul style="list-style-type: none"> 施設の拡充に終始している。区民ニーズの内容や利用者の意見を考慮した改善内容が必要。 施設の拡充によって、子育て家庭のニーズがどの程度充足されるのかの記載がほしい。 地域との連携に関する記載がほしい。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他			

〔評価〕 ○:妥当 △:概ね妥当 △:あまり妥当でない ×:妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		112就学前の子どもの成長を支える	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	○		
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		○	
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	・成果指標②については、第三者評価を行った施設の割合などを明示すべき。また、「満足度」という括りが、広域であるため、満足度は施設に対してか、保育サービスに対してなのかが分からない。
目標値の妥当性	評価	コメント・改善点	
	○		
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	・内部要因ではなく、今後進めることについて書かれている。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア) 評価結果との関連性	○	
	イ) 内容の具体性	○	・保育の質や保育士の能力向上も一層進めていただきたい。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・内容(園の運営と評価表)が徐々に充実してきているようです。 ・多様なニーズへの対応は待機児童の解消等、量的な対応が求められる場面が多いが、サービスの質が低下することが懸念される分野でもある。サービスの質も保たれていることを今後も明確に伝えていただきたい。 		

[評価] ◎:妥当 ○:概ね妥当 △:あまり妥当でない ×:妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		123小中学校の教育内容を充実する	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事務事業があるが、施策を達成する手段としてどのように有機的に関連しているのかわかりにくい。それぞれに事務事業が「教育内容の充実」にどのように寄与するのかわかるような構成を工夫すべき。また、事務事業の目標値の設定について疑問を感じるものが多い。 事務事業がどの基本事務事業に該当するのかわかりにくい。 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標①について、「授業内容が分かる」は主観的な項目であり「学力の定着を把握するた上で客観的で妥当」とは言いえない。また、なぜ国語のみを対象としているのかわかりにくい。 成果指標②について、指導員の数ではなく部活動の状況を示すべきである。また、中学校のみを対象とすることに違和感を感じる。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 例えば成果指標①は全体的なボトムアップを図る指標、成果指標②は個別対応を図る指標というように、明確に意味合いをわけて設定するの一案。 成果指標②の把握方法がわかりにくい。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 目標値の設定の考え方に疑問を感じる。改善を前提とした目標値となっていない。 成果指標①の目標値100%は理想ではあるが、現実的には達成が困難と思われる。また、目標値が23年度から25年度まで固定されていたり、成果指標②の目標値についても「増加」と具体的ではなく、計画性が感じられない。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 目標値の設定が適切と思えないため、成果が上がっているとする評価は妥当性に欠ける。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> この施策全体についての評価をすべきである。また、練馬区の児童・生徒の学力を全国レベルと比較して考えてほしい。 成果指標②の実績値が増加傾向にあると記載しているが、ニーズや適正人数が不明なので説得力に欠ける。また、具体的な成果についての記載がほしい。
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 施策全体についての説明をすべきである。また、人的支援に係る経費として適正な額と判断できる理由や講師や指導員の人数がニーズに見合っているかわかりにくい。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 成果が上がっていることの内外部要因に関する説明ではなく、内部にある問題点の説明となっていて、評価と矛盾している。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 成果が上がっていることの外外部要因に関する説明ならば、学力・学習状況に関連する説明であるべきだが、違う角度の説明である。また、評価とどのような関連があるのかわかりにくい。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 要因分析では問題が多いようであり、良好に進んでいるとする評価と矛盾する。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> 一般論の説明であり、良好に進んでいると判断した具体的な理由の記載がないため、説得力に欠ける。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア) 評価結果との関連性	○	
	イ) 内容の具体性	△	<ul style="list-style-type: none"> 記載内容は、当然と合意できる。しかし、このような取組をこれから進めるといことが、総合評価が良好に進んでいると判断したことと矛盾するのではないかと。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<ul style="list-style-type: none"> グローバル化が急拡大している世界の流れの中で、日本の生徒の学力の低さは憂うべき状態である。まずは、「区内での学力総合点順位を3位以内とする」など野心的な目標を掲げ、改革を進めることを望む。 「教育」に関する難しい施策だと思うが、それだけに重要でかつ区民の期待も高い分野だと思う。区としての明確なメッセージが反映され、かつ、それに見合う区の努力がより一層明確に伝わるような評価を期待したい。 	

〔評価〕 ○:妥当 ○:概ね妥当 △:あまり妥当でない ×:妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		131青少年の自主的な活動を支援する	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	○	<ul style="list-style-type: none"> ・施策132との関連を含めて、今の構成では分かり難い。 ・対象者が6歳から19歳と幅広く設定されているが、年齢に応じた状況やニーズも様々であり、それら実態を把握した事務事業を展開する必要がある。 ・事務事業評価表No.7は、施策の目指す状態から考えるとこの施策に入るのかが疑問 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会に参加している青少年の人数はどれくらいなのでしょう。また、子ども会事業だけが彼らの社会参加の場でしょうか。子ども会事業を選択する理由について具体的に記載した方がわかりやすい。 ・スタッフとして一人でも参加していれば良いとするのは曖昧さが残るので、指標②などを活用
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標は率ではなく、実数を示される方が、区民には分かりやすいと思う。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値100%は、子ども会にはいいことですが、青少年にとってどの程度のインパクトがあるかは不明。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年委員会ともより一層協力」がどのように青少年スタッフの増加につながるのか、具体的に記載するとよりわかりやすい。
	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な説明の記載が無く、根拠が不明なので判断できない。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と経費についての説明が漠然としている。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・成果が上がっていないとする要因を説明すべきである。 ・関係各所を具体的に記載した方がわかりやすい。また、関係各所との連携が当該評価にどうつながるのかが分かりにくい。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・成果が上がっていないとする要因ではなく、もともとの課題分析が書かれている。 ・一般的な抽象論であり、練馬区での地域性のある問題は何かを探り出し、当該施策の評価とどう関連するのか丁寧に記載した方がよい。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は達成されず、課題もあるが、良好に進んでいるとする根拠が不明。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・施策や各事務事業においても目標に達していないものがあるのに、良好に進んでいると判断したことが理解できない。また、評価に対する説明になっていない。 ・「必要性が高い」ということは理由ではない。「良好に進んでいる」ことの判断理由を具体的に記載した方がよい。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア) 評価結果との関連性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・効率化に進むには、評価結果の説明から急に乖離したように見え、唐突感が否めない。 	
	イ) 内容の具体性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に何をしようとするのかが漠然として、政策13全体の内容にも取れる。どこをどのように改善するのかを具体的に記載すべき。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・青少年が、年齢層の異なる乳幼児・高齢者対象の事業にも企画運営で参加が出来ると活動の幅が広がると思う。年齢層の枠を超えての事業展開をしてはどうか。 	

〔評価〕 ◎: 妥当 ○: 概ね妥当 △: あまり妥当でない ×: 妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		212健康づくりの条件整備を行う	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事務事業が行われているが、それがどのように目的達成に向けて連動しているかが不明である。事務事業を詰め込んだ施策との印象を受ける。各事業の横のつながり、すなわち統合が十分に為されていないように見受けられるのが残念。 ・施策の名称である「健康づくりの条件整備」という言葉からイメージする「運動面」に関する事務事業が不足している。「運動面」は他部署の管轄と思われるが、他部署との横の連携もとりながら、区民にとって総合的な健康づくりの条件整備を整えることが重要。(心の健康に関する事務事業についても同様。) 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに回答した人は、もともと健康への関心が高く、「食育に関心がない」人の方が少ないと考えられるとともに、区の施策による貢献を表すものではないと思われるため、正確性に欠け、代表性は疑わしい。 ・「食育」は「健康づくり」の一指標ではあるが、「代表する」とまではいえないのではないかと。また、事務事業評価の成果指標とも重複している。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・一見わかりやすいが、「食育」の定義はアンケート回答者によって理解が異なる可能性があるのではないかと。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに26年度目標値を達成している成果指標を今後も維持していくことはあまり意味がないので、もっと具体性のある成果指標への変更や成果指標②を設定するべきではないか(「食に関して信頼できる情報を得られているか」や「食の知識で実践していること」など)。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の達成率からの評価としては妥当であるが、その割には、問題が沢山ある様な判断理由である。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・条件整備の施策であることから、区民の健康状態までを成果に含める必要はないと考えるが、記述された「課題」(痩せすぎ、肥満者、野菜摂取量)についてどのように対応するのかが不明。 ・食育推進ネットワークの参加者は100名程度、サポーター登録者数もそれほどの数ではない。
成長と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・少々具体性に欠け、何に対する「要因」なのかがわかりにくい。また、食育に関する記述のみで、他の要因に関する記載がない。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・記載内容は、事務事業の一環としての外部団体との協働や練馬区の特性を活かした改善点に関するものであり、外部要因ではないと思う。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・関心を高めることは良好に進んでいるようだが、食の安全・安心を含めた正しい情報の提供ができていのかどうかは、これまでの評価からは不明であり、また、成果指標の曖昧さもあるので妥当かどうかは判断しにくい。 ・区が行った施策・事務事業により成果があがったという具体的な検証が行われていないのにも関わらず総合評価で「良好に進んでいる」という結論づけるのはやや早計であろう。 ・健康づくりはの条件整備は食育事業のみ判断で、良好に進んでいるとは思えない。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・記載内容は、一般論に終始しており、明確な判断理由が記載されていない。 ・今後の方向を示しているだけで当該評価の説明になっていない。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア) 評価結果との関連性	○	
	イ) 内容の具体性	○	
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・受動喫煙防止推進事務の進捗がわかりにくい。各事務事業がどのように連動しているのか、調査結果はどのように活用されているのかについてもわかりにくい。 ・施策内容の「目的」の欄は、①から④までありわかりにくくなっている。もう少し分かりやすい表記を期待したい。 ・今後の食育は、健康な高齢者増加に欠かせないものであるから、医師会の協力だけでなく、総合研究機関とも提携する必要があると考える。健康は総合的にみるべきで、一病息災というように、病気と上手につき合いながら、QOLを維持していくことが必要。 	

施策評価表検討シート

施策名		221地域における医療体制を確立する	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> ・土地収用など達成には難しい問題が多いと思われるが、区内の病床増加が実現可能な目標なのか、代替案を考えた方がいいのではないか。 ・11の事務事業で施策の目的が達成できるか疑問。 ・病床数を増やすための新病院の整備が当面困難であるならば、現状において区民が対応し得る事務事業が必要。 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	・成果指標②は、事務事業評価表No. 10の指標と同じであり、また、施策にどう寄与しているかが不明であるため、代表性があるとは思えない。近隣の区との連携も視野に入れた広い対応を考慮した指標とすべき。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	・成果指標②の電話相談件数について、わかりにくい。また、表面的な「件数」だけではなく、相談内容の分類や紹介先の受診状況等の確認を行い、「かかりつけ医と専門医療機関との機能分担」の推進状況が分かる指標とすべき。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	・成果指標①の目標値が、なぜ2分の1でよいか不明。 ・成果指標②は、目標値を2,800件に設定している根拠が不明（相談件数が多い方がよいのか少ない方がよいのかわからないし、施策の目指す状態を示すものとは考えにくい）。また、データの把握方法も含めて、対象区域が狭すぎる。（かかりつけ医は、区内だけではない）
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	△	・判断理由をみる限り、「目標の方向に向かっている」という評価にはつながらない。
	イ)判断理由の妥当性	△	・理由は、成果指標①についての説明であり、成果指標②については全く説明されていない。成果の見込めない成果指標①により、施策の評価が上がらないのであれば、この成果指標を設定することには、意味がないのではないか。 ・「目標の方向に向かっている」と言えるだけの判断理由の記載がない。
	成果と経費の比較	△	・成果が出ていないのに適切であるとは言えない。
	イ)判断理由の妥当性	△	・病床数増の成果が出ないアドバイスははたして適切なのか（あるいは、結果がでなくてもプロセスにおいて有効だという趣旨であるのか。）また、いくら費用に対してどの程度の効果が出たかが不明
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	・この施策は、土地購入事業だけではないはず。 ・成果の判断理由には、土地についての具体的選定に至らないと記載してあるにも関わらず、土地購入等の財源確保が難しいという理由は整合性がない。また、既存病院、医療従事者確保の医療体制についての説明がなく、わかりにくい。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	・土地の確保と、基準病床数の問題解決だけで、この施策は推進するのか。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア)評価結果との関連性	○	・内部要因に「土地購入等の財源確保が難しい」と記載されているにも関わらず、「丁寧に、かつ積極的に土地の権利関係者と交渉を進める」とある。解決できるのか。 ・土地の確保以外の改善案を検討すべき（例えば周辺自治体との協力関係等。）
	イ)内容の具体性	△	・土地の確保が難しいのは、法外高値で権利調整なのか、それでも面積に死目付で財源が確保できないからなのか不明。財源の問題なら予算を確保する方向での改善案しかないのではないか。 ・病床数の増加が困難なのであれば、予防・初期治療で入院を軽減できるような改善案が必要
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<p>区民の医療機会確保のために、短期的に置くのではなく、長期的に取り組むべき問題と判断して考える必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内の施設だけで病床を確保するのは、現実的ではないと思う。 ・区内の病床確保という面を強調しているあまり、それが達成できていないことが強調され、むしろ区民は不安になる。他の自治体との連携や今ある資源の有効活用の側面にも配慮し、そのことの達成度合いを測った方が、区民の安心感につながると思われる。 ・休日夜間診療は、午後7時から翌朝6時ぐらいまでが必要。そのためには、医師会との協力体制を継続しつつ、区が医師を雇用するなど、10年後20年後を見据えた独自の方策を検討すべき 	

施策評価表検討シート

施策名		231地域福祉活動との協働を進める	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> 各事務事業による研修がどの程度福祉活動を行う団体や個人に役立っているか不明。 各事務事業の成果指標が定員数や補助金受取団体数(定数)を満たしたかどうかになっており、施策を達成する手段として適切かどうかは不明。 協働による福祉活動をより充実させるような、事務事業の構成としてほしい。 パワーアップカレッジの卒業生が学んだことを現場で活かせるような事業を展開してほしい。また、区民からの自発的な提案(企画)を募集して、積極的に支援していく方向での事務事業を実施すべき。 区民の主体的な地域福祉活動が施策目的であるが、対象者数が不明とあり、補助金交付をしている団体もあり、目的と矛盾しないのか。わかりやすく記述する必要がある。 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 毎年200名を養成することが、区との協働や福祉団体運営の安定化にどのようにつながるか不明。また、養成した人が地域福祉活動に実際に活動をしているのか、わかりにくい。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 育成した人たちが、どのように活動しているかが不明。 「人材育成事業で養成した人」が地域福祉活動の担い手になりえたか、という点に主眼をおくべき。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> 何人研修したかの活動実績であって、そこから生み出された成果を示す指標ではない。 毎年200名とする根拠が不明。また、22年度の実績値が113%であり、200名という目標値が適切だったかどうか要検証。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標(研修人数)との関連性は不明であるが、地域福祉活動を支援する取組は行われている。
	イ)判断理由の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> 過去の取り組み、一般論としての必要性、今後の方向性に終始しているが、何故成果があがっていると判断したのかがわかりにくい。
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> 前段は組織の横断的な協力の結果、効率よく実施しているということであろうか。そうであればもう少し分かりやすく記載するとなお良い。
	イ)判断理由の妥当性	○	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> 区民の主体的な取組が重要とのことだが、各組織で行う養成事業だけで十分なのか、また、各組織が単独で行っているのか、組織として横断的に行うことができているかの記載があればなお良い。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> 概念的な説明ではなく、具体的に増えてきている人数などが示せればなお良い。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> 福祉活動の環境整備を進めていることは評価できるが、より具体的な説明があるとなお良い。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア)評価結果との関連性	○	
	イ)内容の具体性	△	<ul style="list-style-type: none"> 書かれていることはよさそうに思えるが、成果指標が妥当でないため、目標が達成されているのか、課題は何か不明であるため、評価結果と改善策の関連性が分かりにくい。 将来へのビジョンを含めて、区民により判りやすい説明にしてほしい。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<ul style="list-style-type: none"> 施策、事務事業ともに成果指標がすべて事業実績で達成すべき定員数や補助金の受取団体数となっている。目指す状態が測れる成果指標を設定すべき。 区民に関連する事務事業全体が理解出来る様にした方が良い。 対象の数が「不明、把握不能」とあるが、対象を把握せずにどうやって協働を進めるのか。例えば地域で登録しているNPOの団体数程度は把握してほしい。 施策の目的が「地域の様々な課題を解決するための協働」であるにもかかわらず、区側で地域の課題を把握・共有されていないことは問題。 概ね妥当と思われるが、経費とその成果が成果が見えにくい。また、福祉活動は、区が「後押しをする」というのが基本的スタンスであってほしい。 	

施策評価表検討シート

施策名		241高齢者の多様な社会参加を促進する	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> ・60歳以上の区民を対象とすることが、適切であるか疑問（対象年齢のうち、年齢が低い人は、自身を高齢者と意識しないと思われる）。 ・対象人数18万人に対する事業規模としては小さいと思う。 ・高齢者が積極的に地域活動に参加することを支援する事務事業も必要ではないか。施策231との連動により、効率的な事務事業が実施できると思われる。 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・施策が目指す方向性を示す指標ではなく、代表とするには部分的な指標。 ・60歳以上の区民の意識から、高齢者センター等への登録がそんなに増加するとは思えない。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の意見や実態を反映していないので、指標としては分かり難い。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の対象人数と比較して、目標値が低い。また、目標値（成果指標①22,000人、成果指標②高齢者人口の2.2～2.3%）の設定理由を記載した方がわかりやすい。 ・成果指標②については、施策の目指す状態から、実際の就業率の方が適当。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を高く設定していた理由や、震災の影響を受けない目標値の説明がなく、妥当性に欠ける。本来は、適正な目標を設定して達成度を測るべき。
	ア) 評価区分の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の地域活動の成果についてが不明。
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・区民1人あたり1,000円が妥当であるかどうかの根拠が不明。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者センターが未整備なことが、成果が上がっていない理由であるとは思えない。また、未整備の理由は何か。 ・成果指標②に対する要因の記載がない。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標①に対する要因の記載がない。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標自体が過大」という表現は違和感がある。過大な目標はそもそも設定すべきではないし、事務事業も、ほとんどの成果指標の達成率が下がりがつある。どこに問題があるかをよく分析すべき。 ・高齢者の地域活動の実態を把握して記載する必要がある。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア) 評価結果との関連性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・成果、総合評価ともにB評価なのに、なぜ効率化を進めるかについての説明がない。
	イ) 内容の具体性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・委託化によって活動が充実する具体的説明と、委託化以外の改善案についても記載すべき。 ・高齢者の知識と経験を活かした就労に関する改善案の記載がほしい。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の地域活動のニーズや実態を踏まえた事務事業であるかは疑問である。公助を中心とした事務事業には限界があると思うので、元気高齢者を活用し、自助、共助を促進するような進め方、事務事業を取り入れた方がよいと思う。 	

〔評価〕 ○: 妥当 ○: 概ね妥当 △: あまり妥当でない ×: 妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		242特定高齢者等を支援する	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
施策を達成する手段として適当か		○	・特定高齢者事業の普及・実施を強化すると、なお良い。
指標全体の評価	代表性	○	・成果指標①について、参加者全員の事前事後評価がなされ、参加者については統計的に効果が認められているという結果が出ていることから、指標に参加者数を用いることは妥当と考える。
	わかりやすさ	△	・特定高齢者（二次予防事業対象者）の定義が分かりにくい。
	目標値の妥当性	△	・成果指標①の目標人数は少なすぎるのではないかと。目標値の設定理由が不明。
			・成果指標②は、国の設定した指標とはいえ、目標値50%が区の実態に合った目標値となっているのか。妥当とする理由がほしい。
(3) 評価について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	・区民一人あたりの経費1,000円以下が適切な範囲とする根拠・説明があれば理解しやすい。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	
	外部要因 記載内容の妥当性	△	・記載内容が、どのような意味で外部要因となっているかももう少しわかるように説明すべきである（医師の診断が不要になったことが成果の上まらない外部要因なのか）。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	・介護予防事業参加者数が少ないことの反省点（参加しやすいものか、対象者やその家族の要望・意見が反映されているか等）を踏まえて、再構築して頂きたい。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
	ア) 評価結果との関連性	○	
	イ) 内容の具体性	△	・どの様に実行していくのかについて説明がほしい。②と③については、1つ2つでよいので、具体的にはどのような改善策を想定しているのかを記載した方がわかりやすい。（例えば、周知・普及の強化策等）
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他			・区の健康診断の際に使われるチェックリストを改良するなどにより、65才以上の区民の健康についての考えや自身の健康管理（自己管理）の実施状況、さらに健康状態の実態を把握し、総合的な対策を打たれることを希望する。 ・ひとり暮らしの高齢者世帯について、特定高齢者の把握に関する対策がとられているのかが不明。

〔評価〕 ◎:妥当 ○:概ね妥当 △:あまり妥当でない ×:妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		254障害者の社会生活を支援する	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	○		
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		△	・成果指標①について、グループホームほどの事務事業と関係する指標なのかが不明。また、サプライサイドの指標であって、利用者側の指標ではない。 ・成果指標②について、様々な障害種別がある中で、なぜ聴覚障害に関する成果指標を設定したのかが分かるように記載した方がよい。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	・成果指標②について、修了者の割合より、実際に手話通訳として活躍した人数の方が妥当ではないか。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	・目標値設定の根拠が不明である。なお、目標値は、実績の延長又は提供側の値ではなく、将来予測も含めて、成果指標①、②の推定必要数を設定し、その充足度など、受益者側の目線で目標値を設定すべきと思う。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	
	外部要因 記載内容の妥当性	○	
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	・財政措置をとったことだけが理由ではないはず。事務事業実施による具体的な判断理由についての記載があればなお良い。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア) 評価結果との関連性	○	
	イ) 内容の具体性	○	・法制度の充実はそのとおりだが、そのことを踏まえて、区としての主体的な取組の記載があるとなお良い。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム等に入所させるのが最終目的ではないはず。入所後の利用者の満足度を測定し、更なる改善をしてほしい。 ・施策254が、どのようにグループホーム等の利用者増加にて寄与しているかが、よくわからない。 ・施策目的にある障害者の社会参加の促進のためにも、各事務事業の利用者・家族の要望をさらに把握してほしい。 	

〔評価〕 ◎: 妥当 ○: 概ね妥当 △: あまり妥当でない ×: 妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		512健全な財政運営を行う	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	○	・ただし、事務事業評価表No.2(車両運行管理事務)がこの施策に分類されていることに違和感がある。	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		○	・基金と地方債残高の成果指標を追加したらどうか。 ・施策の目的は、他の施策(事務事業)にも密接に関わってくるので、他の施策(事務事業)の達成度合いを測れる成果指標を②として設けることも検討されたい。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		○	
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		○	
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	
	外部要因 記載内容の妥当性	○	・ただし、個々の理由が外部要因にあたるかは疑問が残る。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	・練馬区における判断理由をより具体的に記載した方がわかりやすい。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
	ア) 評価結果との関連性	○	
	イ) 内容の具体性	○	・もう少し具体的な記述があるとよい。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		・成果指標について、区の危機感が現れ、かつ区民が理解しやすいものに改善されるよう期待する。	

〔評価〕 ◎: 妥当 ○: 概ね妥当 △: あまり妥当でない ×: 妥当でない

施策評価表検討シート

施策名		513区民本位の効率的で質の高い区政経営を行う	
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの部分で、「区民本位」であるとするのかが分かりにくい。寄せ集めの感は否定できません。 ・事務事業33件は、詰め込みすぎ。職員の能力向上や、情報化・電算化などは重要な活動なので、独立した施策として整理すべき。 	
(2) 成果指標について			
指標全体の評価	代表性	評価	コメント・改善点
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ただし、どのような意識調査を、誰に対して行われているのかの記載が必要。また、施策の目的にある「効率的」を測る成果指標②が必要。
	わかりやすさ	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値60%の内容が不明（「満足」と答えた人の割合か）。また、全施策に対しての満足度を区民がどのように評価するのが理解できない。
	目標値の妥当性	評価	コメント・改善点
		△	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を毎年60%に固定している理由が不明。高める必要はないのか。また、施策の目的からして満足度60%は低すぎる。 ・「満足度」は「どちらかといえば満足」も含まれおり、「満足」の比率は実は10%にも満たない。この「満足」こそを増やしていくことこそが真の目標だと考えられる。
(3) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・表現が分かり難い。判断理由として説得性に欠ける。
	ア) 評価区分の妥当性	△	
	イ) 判断理由の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・事業数が多いが、「区民本位」かどうかは不明。 ・経費が21年度より抑えられているとあるが、職員数減少以外に、主にどのような方法で経費を削減したのかについて、具体的に記載してほしい。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なデータで、組織風土が定着してきたことを説明すべきである。 ・行政サービスの検証について、PDCAサイクルに基づく記載がほしい。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・外部要因ではなく、内部要因である。 ・長期計画を着実に推進しても、国際的にも予期せぬ事態が次々に起こっている。それらへの対応も考慮すべきである。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○	
	イ) 判断理由の妥当性	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ただし、区民要望に込えているとする根拠が不明。
(4) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア) 評価結果との関連性		○	
	イ) 内容の具体性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・行政改革推進プランに区民の声をどのようにして反映させるのかの記載がほしい。 ・抽象的な記載にとどまっている。具体的にどのような仕組みをどのように作って改善していくかこそが区民の知りたいところではないか。
(5) その他(総合的なコメントなど)			
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・行政改革推進プランの体系と比較すると判るが、5行政運営分野は、各事業本部の事業活動を横串とすると、それらを支援する縦串に相当する。(経営システム図参照) 戦略構築も含め、この部分を体系的に整合性させるなど改革が必要と思う。今後議論していきたい。 ・この施策を区民が理解できているか疑問である。区民の理解が深まるようにさらなる工夫がほしい。 ・優先順位の高い事業に財源を振り分けながら効率的に運営を進めていくために、「選択と集中」の観点で事務事業をさらに検証するとともに、人員削減による職員の質・負担等を省みながら、効率性の高い区政経営を行ってもらいたい。 ・評価は区民の満足度によるものだけでなく長期計画に沿って財政面を含め、着実に進んでいるかどうかを見る事が重要である。 	

〔評価〕 ◎:妥当 ○:概ね妥当 △:あまり妥当でない ×:妥当でない